



今の子どもたちとの 関わり方について

和光市子ども教育相談室
教育相談担当専門委員 中村 親彦

今日のわが国の社会・教育の問題として、青少年のいじめ、自殺、殺傷事件などが多発し、憂うべき状況が見られます。この状況を生み出す背景には、主に次のことが考えられます。

- ①核家族化や少子化のために家庭内外の多面的な人間関係が育たず対人関係が未熟です。
- ②高度情報化により、子どもへの刺激が増えた上に、保護者の過保護、過干渉、無関心が重なるなどにより、子どもの欲求不満が増大しています。
- ③放課後などに友達と存分に運動するとか、地域の中、異年齢の友達と様々な遊びに熱中するなどの機会が減少し、ストレスを解消する手段が乏しくなっています。

そこで、このような状況の子ども達とどう関わるかについて考えてみます。

「愛情・理解・信頼」を子ども達に充分注いで育てます。例えば、子どもをよく見守り、その子のよさや努力をその都度認めて褒め・励ます（愛情）、子どもが悩んでいる時には、子どもの立場に立って話を聴く（愛情・理解）、物事への取り組みは子どもに選択の機会を与え、責任を持って行うようにさせる（信頼）というように、具体的に関わってください。

「あいさつをする。時間・約束・ルールを守るなど基本的な生活習慣を身につけさせる」

「様々な友達と接する機会を多くして、人間関係のあり方を学ばせ、社会性を身につけさせる」

「家庭における役割分担などによる存在感、必要性を持たせる」
などを念頭において子どもと接してください。

日常生活において、家庭では保護者が、地域では大人が範を示して進んで声を掛けるなど、子どもと積極的に関わるとともに、そうっと温かく見守ってください。



「(仮称)教育支援センター」が 4月にオープン!

和光市子ども教育相談室は、
4月から本町小学校の余裕教室を利用した
「(仮称)教育支援センター」となって、内
容も充実してスタートします。

地域の一人ひとりの

勉強会

「高等学校の生徒指導の現状と課題」について

埼玉県立和光高校 館校長をお招きして

はじめに

高校生の問題行動の7～8割が15歳（1年生）にみられる。各中学から引きずったトラブルを解決するまでは、1学期間の時間を要する。何を考えているのかわかり難いので、どのようなコミュニケーション方法をとるべきかを考えてから指導することが必要である。

● 高校生のモラル・規範意識の状況

単位：％

県立高等学校長から見た高校生のモラル・規範意識について

項目	かなり低下した	低下した	変わらない	向上した	かなり向上した
他人を大切にする	9.8	65.9	21.5	2.8	0
自分を大切にする	12.6	59.9	25.1	2.0	0
物を大切にする	17.8	61.9	18.2	1.6	0
法や規則を守る	13.8	62.8	21.9	1.2	0
互いに協力する	6.5	50.6	38.9	2.8	0.4

平成16年校長協会調査より

この表から見て、モラル・規範意識の低さ、我慢できない、すぐキレる子どもたちが増加の現状にあることが分かります。

その原因として、学校・家庭の教育力の低下、大人社会のモラルの低さ、インターネットなどの情報や風俗産業の影響、地域の人間関係の希薄さを調査の結果は示しています。

改善策の一つとして、家庭教育の大切さがあげられます。

家庭教育で実践したいこと

- 親の生き方、姿勢を子どもに示すこと。
- 善悪の区別を教える。
- 親の考えを真正面から向き合って話す。
- 規則正しい生活・食事の必要性。
- 挨拶・言葉遣い、命の大切さ・お金の大切さを教える。

● まとめ

既に、県内92%の高校では具体的な取り組みを実施し成果を挙げているとのことですが、青少年の健全育成は学校だけではなく、家庭・地域が連携をとって、子どもたちの様子を観る、

声をかける、話を聴くなど継続性を持って取り組むことの大切さを思いました。そして、私たち地域の大人が、身近なところに無関心であってはいけないことを学びました。

9月26日 埼玉県青少年健全育成研修会（県民会館）
10月 定例会（朝霞警察署生活安全課との情報交換会）
11月 定例会「まもる店」報告書冊子作り。あひる52号を添えて協力店に配布。
12月 定例会（勉強会・和光高校校長先生を囲んで）
12月9日 青少年健全育成作文発表会手伝い
1月 定例会（和光市図書館との情報交換会）
1月21日 和光市青少年育成市民会議「君のライブ」手伝い
2月 定例会あひる53号と図書マップについて
3月1日 あひる53号発行
3月 定例会18年度の活動を終えて

かが子どもを守って

図書館との 情報交換会

和光市図書館 曾根田副館長と小林司書を
お招きして

和光市の人口は 75,000 人あまり、図書館の利用カードは 43,000 枚を発行。実際には、転居したり、1・2 回のみで使われていないのもあるが、かなりの人が利用しているとのこと。仕事は、きわめて地味な印象だが、市民の方々が書物をとおして豊かな生活が送れるようにと手伝うこと、また本の 1 冊 1 冊が市民の財産であることから、それを大切に扱っているとのことでした。

私たち推進員会では、毎年 1 月に和光市図書館との情報交換会を行っています。図書館の事業などは広報などを見ることで知ることができますが、仕事のことや本を通して何を伝えたいかなどは知る機会がなかなかありません。今年は 1 月 10 日の定例会時に、お話を伺うことができました。

■和光市図書館 18 年度上半期の 利用状況（月別）



	入館者数	一日当りの 平均入館者数	リクエスト数	インターネット予約数 (17 年度)
4 月	20,239	810	920	744 (314)
5 月	20,892	836	884	994 (438)
6 月	21,232	850	800	802 (498)
7 月	24,634	985	887	766 (486)
8 月	27,484	1,057	821	838 (470)
9 月	19,247	917	749	885 (526)
10 月	19,622	853	898	893 (637)
平均	21,907	901	851	

図書館では、学校・市内の公共施設とも連携を取り、本の団体貸し出しを実施しています。市内小中学校の全学級(学期ごとに小学校 100 冊、中学校 50～100 冊) 9 学童保育クラブに 100 冊、7 保育園に 550 冊、子育て支援センター・保健センター・児童館等へ 800 冊の児童書を貸し出しています。貸し出す内容は、学校から依頼を受けたテーマにそった本の用意などをするそうです。

利用状況から見ると夏場などは涼を求めて早朝からの来館者もいること。また、インターネット予約が増えていることは IT 時代を表してい

るが、一方では、IT 革命は本離れ・活字離れをエスカレートしている。しかし、特に小さい子どもたちは絵本をとおして、読み聞かせの中から知性・感性が育てられるものである。ぜひその時間を大事にしてほしいと熱くお話しくださいました。

印象に残ったメッセージがありました。「昔話を聞いたり読んだりして育った人は、それだけで人生に対する抵抗力がつく」「児童文学や昔話は、人生を肯定的に見る下地をしっかりと子どもの中に作ってくれる」。是非、家族で図書館に足を運んでみてください。

青少年育成推進員会 年間活動報告

5 月 委嘱式

第 1 回定例会

(年間活動について)

6 月 定例会

(青少年をまもる店の説明など)

7 月 定例会

(青少年をまもる店について、学校区ごとに詳細な打ち合せ・夏休みに向

けて)

7 月下旬

市内「青少年をまもる店」協力店 230 店を訪問。訪問カードを回収・まとめ

8 月 和光市青少年育成市民会議主催「夏季スポーツ大会」キックベース担当受付・競技の手伝い。

地域代表者会議(訪問調査のまとめと 2 学期の事業など)

9 月 1 日

あひる 52 号発行

9 月 定例会

(夏休みの反省、少年指導員との情報交換会)

ふれあい あれこれ

今年度青少年育成推進員会で活動された小中学校代表者の皆さんから、1年を通しての感想をいただきました。



「子进行親の気持ちは？」

今年度、白子小からの代表として、推進員を務めさせていただきました。右も左も分からない状態で不安もありましたが、他の委員の方々に丁寧にご指導いただき「青少年をまもる店」の訪問もスムーズに行うことができました。

「あひる 52 号」の編集会議では、読み合わせなどの合間に、普段お話しする機会がない中学・高校生の子もを持つ委員の方と、子育てのことや子どもを取り巻く環境のことなど、心配事の相談もさせていただきました。子どもの年齢は違っても、子进行親の気持ちは変わらないものと実感することができました。有意義な経験ができ嬉しく思います。

「有意義だった1年」

私たち2人は第三小から推進員会に参加させていただきました。地域にある多くの店舗が「青少年をまもる店」として、あひるのマークがついたプレートを店頭に掲示していただき、青少年に有害と思われるものは売らない。子どもたちが危険なめに遭った時・困った時なども力を貸していただくなど。青少年の健全育成にご協力をいただいていることを知ることができました。

また、研修会では少年指導員や警察の生活安全課の方のお話から、今の子ども達の状況や関わり方などを知り、わが子・わが家庭では如何なものかと改めて考えさせられました。このような活動に関わることができ、有意義な1年でした。

「振り返る機会に」

この1年活動に関わり、今まで知らないことが多くありました。「青少年をまもる店」の訪問調査では初めて遠方のお店に伺いました。少年指導員・図書館の職員をお呼びしての情報交換会、又警察の方のお話は、深夜徘徊・不良行為を取り締まる街頭補導対策、非行や薬物防止活動を行っているなど。そして、保護者は、深夜に子どもを外出させてはいけないそうです。

また、勉強会では、和光高校の校長先生から高等学校の生徒指導の現状と課題を聴き、親の考え方を真正面から伝えること・よく観る・声を掛ける・話を聴く・ダメな事はダメと伝えることが大切であるとのことでした。いろいろな方のお話を伺い、自分の家庭はどうか、問いかける機会になりました。

「家庭教育が大切」

1年間の活動の中で、お店訪問をしたり、少年指導員・警察の方のお話、勉強会など、日頃得られない情報を聞くことができました。それらを通じ一番感じたことは、親のモラルの低さ、子どもへの無関心さが子どもを非行に走らせるということでした。改めて、家庭教育の大切さを思い知らされた1年でした。

「知り合えた1年」

和光市では、20余年も前から、地域で青少年を守ろうという活動があったことを、推進員になって初めて知りました。過去の推進員さんが市内の商店と顔なじみになることで、たくさんのお店が「青少年をまもる店協力店」に加入しています。

今回、お店訪問したところ、大変協力的に地域を見守ってくださっていることが分かりありがたく感じました。中には、日頃から子どもたちに目を向け、あいさつを交し合ったりしていることなどのエピソードも聞けて、心温まる思いでした。これらの活動の結果、和光市には成人向け雑誌の自販機ゼロ、非行・事件防止に効果が現れているようで大変嬉しく思います。

月1回の定例会においても、多方面で活動している方のお話、情報交換会・勉強会など、自分の中で意識が高まるのを実感しました。



あひる 53 号へのご意見・感想などお寄せください。お待ちしております。

